化学工業日報　2014年８月４日（月）

昭和興産
タイランド

売上高倍増、50億円へ

食品原料やデリバリーに力

昭和興産はタイ市場における事業展開を強化する。現地法人の昭和興産タイランド（バンコク、有賀秋男ＭＤ）で好調な食品原料事業を伸ばす一方、倉庫機能を生かしたタイムリーなデリバリー体制、現地ＯＥＭを活用したマッチングビジネスなどに注力、売上高の増大を目指す。長期的には既存のタイ事業の２倍以上となる50億円を視野に入れ、自動車部材など新規分野にも広げていく。

昭和興産は化学品や合成樹脂、食品原料、電機・電子材料、産業資材などをコア事業とする専門商社で現在、第４次中期計画を推進中。重点戦略には得意分野の構築やＯＥＭビジネス、現地調達化の提案などを掲げている。

先頭を切っているのが昭和興産タイランドで、コア事業のなかでも食品原料の伸びが著しく、売上高の２割まで高まっている。同社では食品メーカーの調味料原料などの大半をタイで賄っていることに注目、これらの原料を現地で調達、実績を上げている。

商社機能としても、現地調達の流れに対応し日本のみならずタイ、中国（上海）、台湾、マレーシア、ベトナム、中東など、これまでに仕入れ先は約１３０社に拡大している。輸入は混載便などによりコストを抑えつつ、各工業団地にある10カ所の倉庫で在庫や販売管理し、顧客に負担をかけないタイムリーなデリバリー体制を構築する。さらに日本国内でのコスト競争力から生産継続を断念する日系メーカーを紹介、ＯＥＭによるビジネス継続を提案するマッチングビジネスにも乗り出しており、成果が出始めている。

同社では２００５年以降、増収記録を伸ばし、今期も約７億㌦（20億円規模）近い売上高を見込むなど好調で、ＩＰＯ認可に続きＩＳＯ９００１認証も取得するなど信頼性も担保する。今後もフットワークを武器にさらにタイ市場の拡大が見込めるとみており、今後、日本本社との連携を一段と強めることで売り上げ増につなげていく。自動車関連など新規分野も俎上に乗せていく。